

2008年度受託研究概要報告

ステーションナリー「ため息3秒」 発展型の研究試作

研究メンバー

大田尚作 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授

委託者

ゼロ精工株式会社

1 背景

クライアントであるゼロ精工株式会社は、航空機の精密加工部品メーカーであるが、その高精度の金属旋盤加工技術を生かして、文房具製品の開発にも着手している。中でも代表的な文房具商品「ため息3秒」は各種メディアでも紹介され知名度も高い商品である。この商品はボールペンとペンスタンドを兼ねた筒状のケースの2点で構成されており、ペンを差し込むと微妙なクリアランスによりゆっくりと筒状のケース内をゆっくりと落下し、その精緻な加工に魅力が魅力となっている。今回、その技術を踏襲した発展型「ため息3秒」の研究開発依頼を受け、デザイン提案をおこなっていった。

2 開発の方向

開発を進める前に、現行商品の魅力を整理すると以下の2点に集約される。

- 1: 精緻な加工技術を前面に表出した男の所有物としての魅力
- 2: ゆっくりと落下していく3秒間が一日の心のストレスを減少させる癒しグッズとしての魅力



図1 ため息3秒アクション図

現行の商品魅力を損なうことなく、新たに以下の付加価値を具体化していく方向でデザイン展開を進めた。

- 3: 男性層だけでなく女性層にアピールできるデザイン開発
- 4: 癒し効果を増すために、LED 光を付加価値として加える

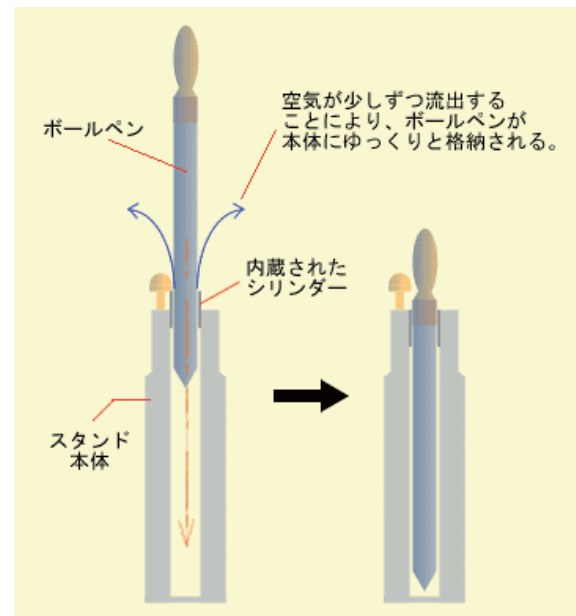


図2 ため息3秒構造図

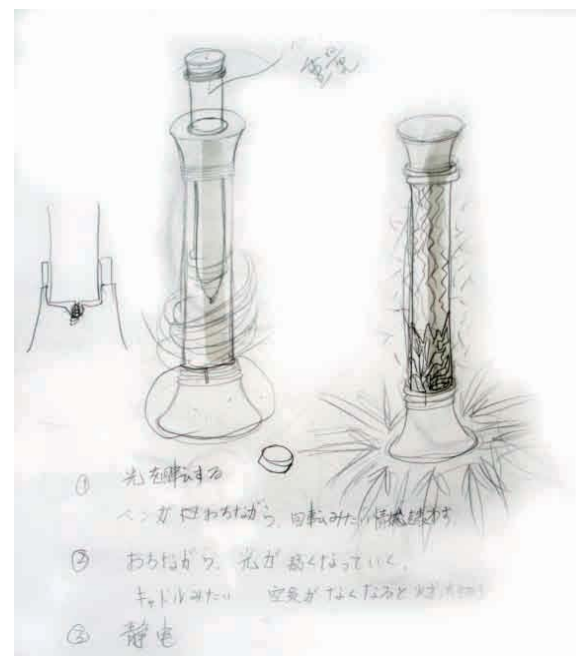


図3 アイデアスケッチ

3 デザイン展開

現状商品の機構と形状を踏襲し、台座部に発光色が3秒間に朱・青・緑の3色に変化するようプログラムされたLED 光源を装着させた台座を提案した。

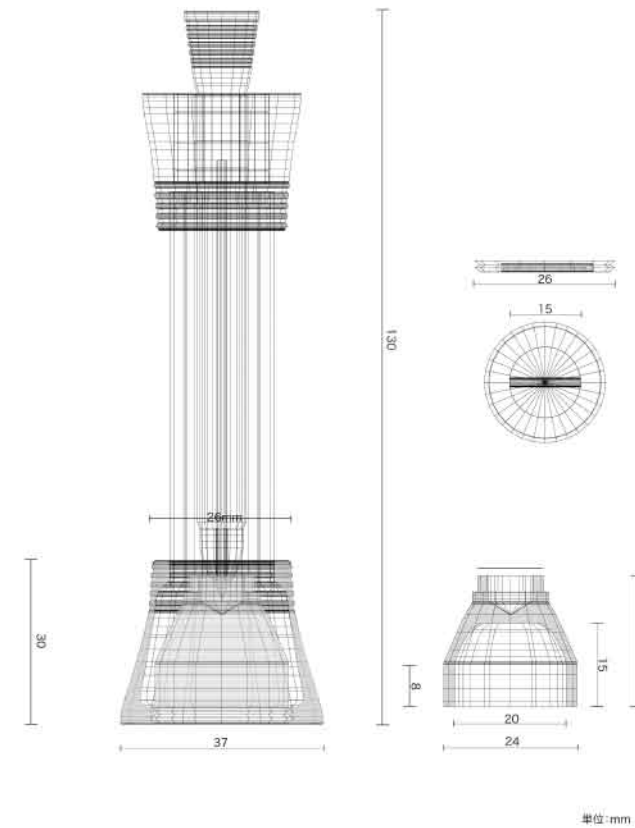


図4 提案図面



図5 提案CAD

4 おわりに

本論はコンセプト設定から試作までの経緯報告となったが、その理由はLED 発光プログラム開発の技術とコスト、及びアメリカに端を発する経済不況に再検討が行われているためである。社会状況の好転にとれない本提案は再び商品化へ向けて開発継続されるものと期待している。



図6 ペン接触と同時に発光



図7 3秒の落下時に変光

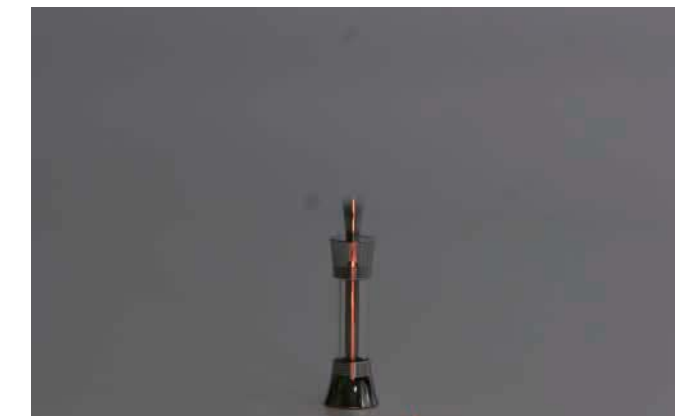


図8 着地後ゆっくりと消光